場所・面積　山梨県韮崎市・1,359.17ha

管理目的　社有林は基本的に木材生産を目的とするが、鳳凰社有林については自然環境保護、生物生態系の維持継承、災害防止 および地域社会への貢献等のため、現状維持を原則とする「環境林分」として管理。

サイト概要　日本百名山に数えられ、人気の登山ルートである鳳凰三山（地蔵ヶ岳2,764m、観音岳2,841m、薬師岳2,780m）の山域を含み、南アルプス国立公園に隣接している。山頂付近には希少な高山植物が見られる。高山植物の保護をはじめとして地域の生物多様性保全に貢献していると共に、環境教育、登山・キャンプ等レクリエーションの場として親しまれている。

土地利用の変遷　第二次世界大戦後、大昭和製紙の社有林となり製紙原料をはじめとした木材生産を主目的に管理。企業合併に伴い日本製紙社有林となる。「社有林経営基本方針」に従いほぼ全域を「環境林分」として実質禁伐化。2007年にSGEC森林認証（JAFTA-001）を取得。2014年ユネスコエコパーク（南アルプスユネスコエコパーク）に登録。

サイト周辺の環境　山梨県韮崎市西部に位置し、鳳凰三山主稜線から北東に広がる針葉樹と広葉樹の混交林で、下部には針葉樹の人工林がある。サイト内には主稜線の縦走路と連絡する複数の登山ルートが存在し、主稜線上で複数の山小屋が営業している。

アピールポイント　南アルプスでも有数の人気登山ルートである鳳凰三山をはじめとする、変化に富む地形、動植物、景観。特に春から秋は多くの登山者で賑わっている。







オベリスク（地蔵ケ岳）とハイマツ

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

【健全性】　高山植物をはじめ希少種を含む在来種を多数確認。
【生態系サービス】　対象地は水源涵養保安林に指定。
社内制度的には環境林分に分類され実質禁伐管理。





【主な植生】

標高2,600m以上の高山帯にハイマツ群落、各種高山植物群落、1,700～1,800m以上の亜高山帯にシラビソ林、コメツガ林、ダケカンバ林、コメツガ・ウラジロモミ林、800m以上の山地帯にブナ林、ミズナラ林、ツガ･ウラジロモミ林が見られる。亜高山帯より下部の低標高域にカラマツ、アカマツなどの人工林が見られる。

【確認された主な植物】

上記木本類に加え、リンネソウ、キバナノアツモリソウ、マネキグサ、コイチョウラン、タカネビランジ、ミヤマコウボウ、サンカヨウ、シラヒゲソウ、イチョウラン、ホウオウシャジン、テガタチドリ、キタザワブシ、ヤマブキソウ、クマモナズナ、オオビランジ、カモメランなど。

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

鳳凰三山（地蔵ヶ岳2,764m、観音岳2,841m、薬師岳2,780m）の主稜線から北東（韮崎市側）に広がる、尾根と谷が入り組む急峻な斜面。主稜線の西側には野呂川を挟み北岳（3,193m）をはじめとする南アルプス主山脈が対峙する。主稜線（約2,800m）から下部（約1,200m）まで約1,600mの標高差がある。

主稜線では地蔵ヶ岳のオベリスクに象徴される岩礫地とハイマツ帯が混在するが、それ以下では各標高に応じた樹種で構成される森林になっている。

温暖多雨な気象だが高い標高と相まって冬季は主稜線から中腹にかけ積雪がある。

【主な植生】

高山植生～亜高山植生～山地植生

【確認された希少植物】

ホウオウシャジン	（環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠB類）
キバナノアツモリソウ	（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）
キタザワブシ	（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）
マネキグサ	（環境省レッドリスト準絶滅危惧）
オオビランジ	（環境省レッドリスト準絶滅危惧）
リンネソウ	（山梨県レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類）
タカネビランジ	（山梨県レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類）
ミヤマコウボウ	（山梨県レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類）
サンカヨウ	（山梨県レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類）
シラヒゲソウ	（山梨県レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類）
テガタチドリ	（山梨県レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）
ヤマサギソウ	（山梨県レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）など




ホウオウシャジン




キバナノアツモリソウ




キタザワブシ

生物多様性の価値

価値（９）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・廉潔性を高める機能を有する場

【場の概況】
上部の南アルプス国立公園と下部の里山地帯の間に位置し緩衝機能を有している。

【隣接・接続する保護地域等】
南アルプス国立公園の第3種特別地域に接続している。

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】
南アルプス国立公園の緩衝機能を果たしている。







オオビランジ



リンネソウ



サンカヨウ



マネキグサ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

・日本製紙社有林として取得したSGEC森林認証（JAFTA-001）を維持する。

・社内区分で指定した環境林分（環境を重視し実質禁伐）としての管理を継続する。

・監視や巡視により、盗伐、様々な被害などの異常の把握に努める。

・希少高山植物保護を目的としたシカ柵を設置する（南アルプスユネスコエコパーク韮崎市地域推進協議会）。



モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】※①は各項の①、②は各項の②とリンク

①希少高山植物
②動植物全般

【モニタリング場所】

①稜線上の山小屋周辺
②主に経営林分（当エリアに隣接）

【モニタリング手法】
①山小屋周辺に設置したシカ柵内を中心に植生状況を確認
②林内を広く巡視

【実施時期及び頻度】
①5～10月頃（随時／年、主に山小屋スタッフによる）
②1回以上／年

【 実　施　体　制 】
①南アルプスユネスコエコパーク韮崎市地域推進協議会
②山林監視人